

日之影町ゼロカーボンシティ宣言

近年、二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化に伴う影響で、異常気象や雪氷の融解、海面上昇が世界的に観測されています。

日之影町においても、2022年9月、台風14号の襲来では大雨によって町内各地で土砂崩れが発生しインフラに甚大な被害をもたらしました。今後一層の地球温暖化がもたらす異常気象によって、世界農業遺産、ユネスコエコパークに代表される、先人から守りつないできた豊かな自然や農村文化の喪失をもたらす恐れがあります。

地球温暖化の防止対策として、2015年に合意されたパリ協定では「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」という目標が掲げられました。この達成のためには、2018年に公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書において「2050年までに世界の二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

このことから、日之影町では「人と自然がひかりかがやくまち」を未来に引き継ぐため、町民、事業者、行政が一体となって脱炭素社会の実現に向け積極的に行動し、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティひのかげ」を目指すことを宣言します。

令和6(2024)年3月26日

日之影町長 佐藤 貢